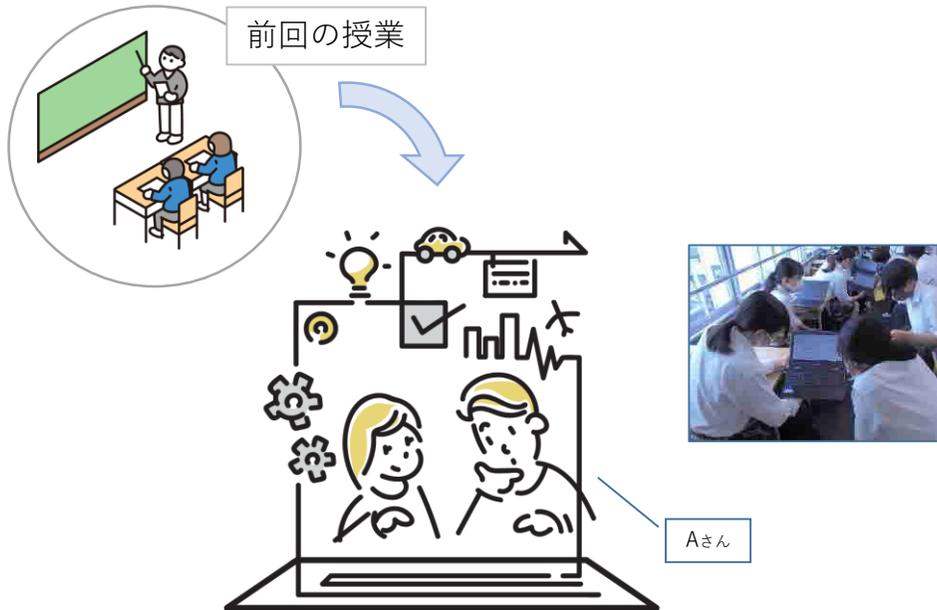


DXによって 変わる社会、変わる学校

高知県教育委員会

※資料2のP.4（「ある中学生Aさんの視点」抜粋）

授業①



一斉授業型で受けた前回の授業の内容を踏まえて、提示された課題について考えを端末でまとめる。まとめている過程は常にクラウドで、クラス内に共有されているので、他者の意見等を参照したり、時に協力したりしながら、考えをまとめていく。



☆関連動画
「【学んでみた】高知家まなびばこってなんだろう。」



※イメージ



デジタルドリルの小テストを解く。結果等は「高知家まなびばこ」にスタディログとして集積され、自らの振り返りにあてることができる。
(教師側の視点は「ある小学校教員 Bさんの視点」参照)

急速に変化する社会の中で、
全ての子どもたちの可能性を引き出すために、
「授業づくり」において大切とされる考え方

「個別最適な学び」
「個に応じた指導」



「協働的な学び」

「指導の個別化」

子どもの特性や学習進度等
に応じて柔軟に指導

「学習の個性化」

子どもの興味・関心・
キャリア形成の方向性等
に応じて最適となる学習を調整

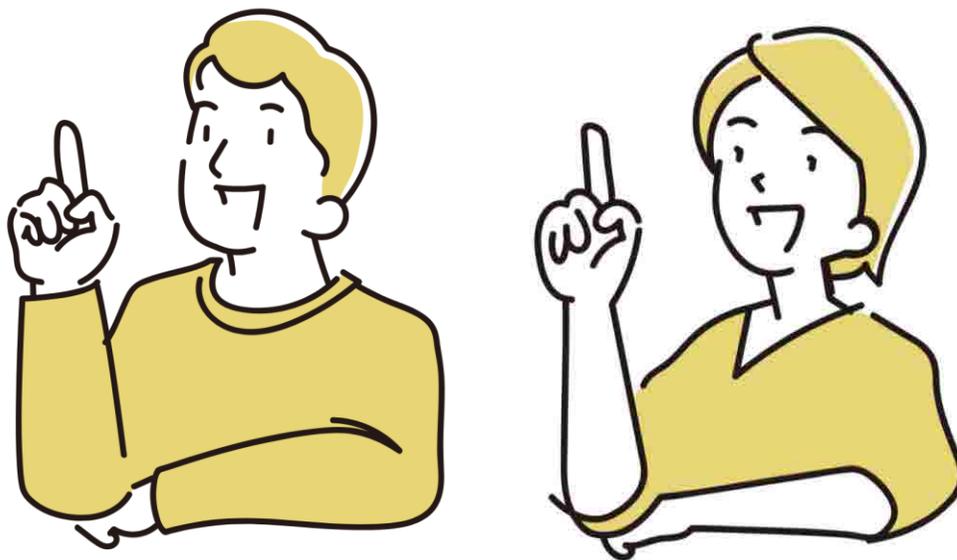
多様な他者と協働しながら、
あらゆる他者を価値のある
存在として尊重

異なる考え方が組み合わせさり、
よりよい学びを生み出す





これならできる！！



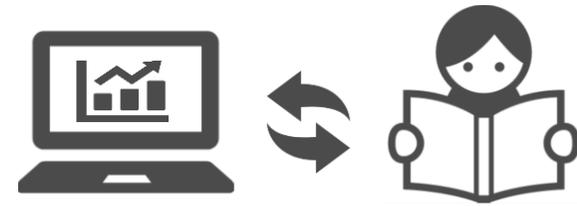
「1人1台タブレット端末」「クラウド環境」は、
授業づくりや学校・学級運営等で
「したかったこと」「するべきだったこと」を実現できるツール

「したかったこと」「すべきだったこと」を実現するうえで、 「端末」「クラウド」がツールとして発揮できる強み

例)



情報の取捨選択・検索、資料・作品の作成、
他者との共有、他者の考え・意見の参照、
意見交換、発表、仮想体験など、
デジタル化・クラウドの導入により、
授業展開の様々な選択肢が広がり、
主体的・対話的で深い学びが
「実施しやすい」



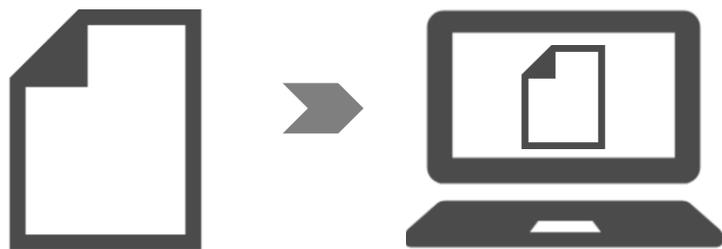
個々の学びの進捗や
理解度の状況（スタディログ）等が
即時に集約して把握でき、
子供たちの次の学びへの展開に
「フィードバックしやすい」



持ち帰り等により、
多様なコンテンツ・教材を
提供できることで、学習習慣を
「定着させやすい」

そして、授業の学習と
「つながりやすい」（シームレス）

授業改善にあたって、
単純に紙でやっていたことを
端末やモニターに
「置き換える」だけの
授業になっていないか。



端末等の活用は、
それ自体が「目的」ではない。

「個別最適・協働的な学び」
「教師は子どもの主体的な学びを
支援する伴走者」

・・・

「令和の日本型学校教育」にあたって
必要な取組を実現する支援を
してくれるのが端末等のICT機器。



端末等の活用は、
その強みを生かして、
教師・学校が実施したい・すべき活動を
支援する **「ツール」「手段・手法」**

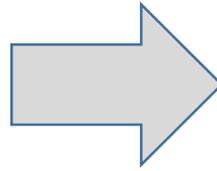


学校

今後、学校を卒業して
社会に出た後に
必要な力を身につける

このような「社会」を意識して、
必要な**知識・技能**を学び、
思考力や判断力、表現力を学び、
物事への**取り組み方**を実感し、
それを「自分ごと」に
落とすような**意欲**を得ることが
できるような授業・学びの展開
を図ることが必要。

授業観・学習観の転換



社会

- ✓ どのような課題があるかを自ら見出し、その解決策を追究する
- ✓ その解決策を追究する方法は様々で、自らそれを見極めて適切な方法を選んでいく。
- ✓ 時には情報を検索し、時には他者の考えも参照し、自らの考えを常にアップデートする。
- ✓ 様々な考えや価値観があるなかで、他者とコミュニケーションをとり、時に協働したり、発信をしながら取組を進めていく。



「端末」「クラウド」がツールとして発揮できる強みを
「使いどころ」を踏まえて最大限に生かし

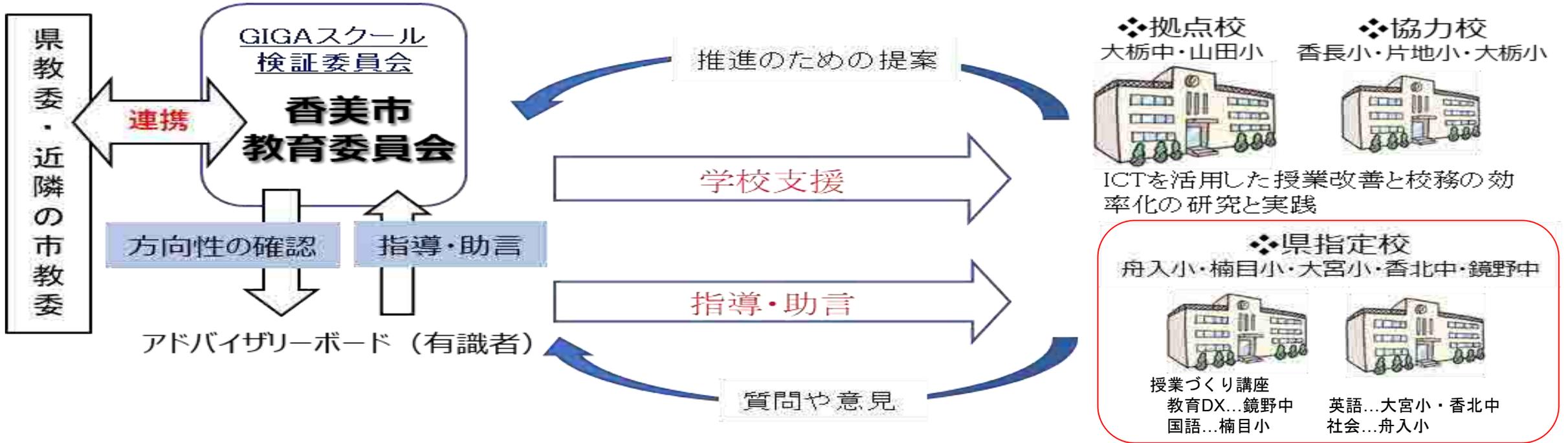
学校は、「社会において必要となる資質・能力」を
育成する場であることを改めて意識して

授業改善等に向けた取組の展開を
広げていく必要があります



香美市の教育DX ～ 2nd GIGA に向けて～

香美市の教育DXプラン



○授業改善（学びのDX）

ICT機器を日常的に活用した授業による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実による深い学びの実現

○働き方改革（校務のDX）

ICTを活用した校務の効率化と負担軽減の促進

香美市の教育DXプラン

教育DX実現に向けた主な取組

1.授業観の転換

県の授業づくり講座の開催と参加、各種研修、視察研修

2.授業と授業外のスムーズな接続

デジタルドリルの活用、授業と予習・復習のサイクル化

3.児童生徒のICT活用能力の育成

成果物発表の場の保障、県のタイピング選手権等の促進

4.教職員のICT活用指導力の向上

市ICT利活用研修、県ICTスキルアップ研修、支援員訪問

5.ICTを利用した業務改善

スケジュールや時間割、時数管理、会議の仕方

6.環境整備

デジタルサイネージ設置、PCの入れ替え、通信環境の整備

<推進チーム>

※実務担当者

統括官（統括）

係長（環境整備他）

主事（環境整備）

ICT支援員

（訪問・環境整備）

ICT支援員

（訪問・学習指導）

対策監
指導主事

授業観の転換（学習者主体の授業へ）

❖授業づくり講座の開催と参加（県指定・市内5校）

鏡野中（教育DX・外国語）

楠目小（国語） 舟入小（社会） 大宮小（外国語） 香北中（外国語）

❖市指定校への支援（拠点校2校、協力校3校）

校内研修への推進チーム派遣、進捗確認訪問（学期ごと）

❖市の研修への参加

ICT活用研修（2回）

❖講演会

校長会研修（2回）

❖先進校視察



授業と授業外のスムーズな接続

❖ 予習課題のデジタル配信

課題配信、動画視聴

❖ 復習課題のデジタル配信

復習課題やまとめの配信、授業のふりかえり

学力定着のためのデジタルドリル

❖ 自主学習

予習や復習

❖ 予習と復習のサイクル化



～子どもたちの声～

- ・ 家庭学習で次の授業が分かりやすくなった。
- ・ 自分にあった予習や復習ができ、気になったところをすぐ調べることができる。

個別最適・協働的な学びの一体的充実に向けた 授業づくりによる課題解決的な学びの推進

香美市立鏡野中学校長 切詰 美穂



鏡野中キャラクター みのりん

◇ 生徒数 368名(校区5小学校)

◇ 学校教育目標

「日本一幸せの多い学校 日本一幸せの多い生徒」

◇ 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの創造

～課題解決的な学び～」

◇ 全教科での取組の重点

(1) 読解力向上の取組

(2) ICTの活用



昨年度の授業実践 ～課題解決的な学び～

考えの再構築にタブレットを活用

他者の考えを共有することで、自身の考えを再構築する材料にした。



「他者参照」が自身の課題解決の参考になるように

生徒全員の考えを共有し、いつでも見て、課題解決の参考になるようにした。

主体的に学ぶ子どもの姿
学びの深まり
学習者主体の授業のよさを実感



本年度の取組

- クラウドの特長を生かした
個別最適・協働的な学びの一体的充実に向けた
授業づくりによる課題解決的な学びの推進
- 授業と授業外のスムーズな接続

令和6年度「令和の授業を創る」推進プロジェクト

～ 授業づくり講座（教育DX） 指定校 ～



研究推進体制

本年度の取組

教科主任会（教育DX推進チーム）

- 主幹教諭（教育DX推進教員）が運営
- 研究主任（教育DX推進教員）参加
- 月1回以上実施

ベクトルの共有
取組提案
チェック(分析等)

教科会

- 教科主任が運営
- 主幹教諭参加
- 5教科週1回実施

実践
チェック(分析等)
<提案>

授業づくり講座（教育DX）

- 主幹教諭・研究主任・英語科3名

【教材研究会 9/26・授業研究会 1/14】



課題解決的な学びの推進

学習の見通しを立てる → 自ら考えるプロセスが重要

- ①これからどのようなテーマを学ぶか
- ②どのような方法で、どのような計画で、その学習を進めていくか

社会に出たら...

- 様々な場面で、自らが取り組むべきものを確認
- 自分自身で取り組む方法等を見出す
- 時には調整をしながら、課題を解決、活動を進めていく

こうした**プロセス**を
授業の中で**学び**、
進めていく力を身につける
ことが必要

I C T 機器、クラウド環境を活用することで容易に実現

学習形態を自己決定



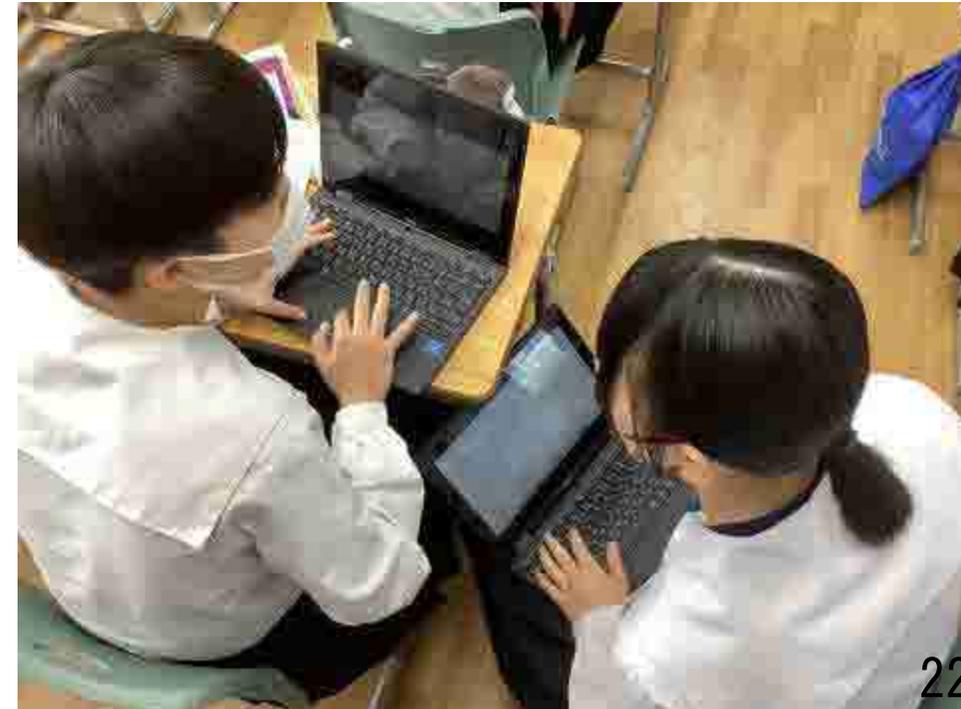
協働

個人



英語科<2年生>

本年度の取組



英語科<2年生>

本年度の取組

同時編集により、助言等を入力

教員

他者参照

現時点での成果と課題

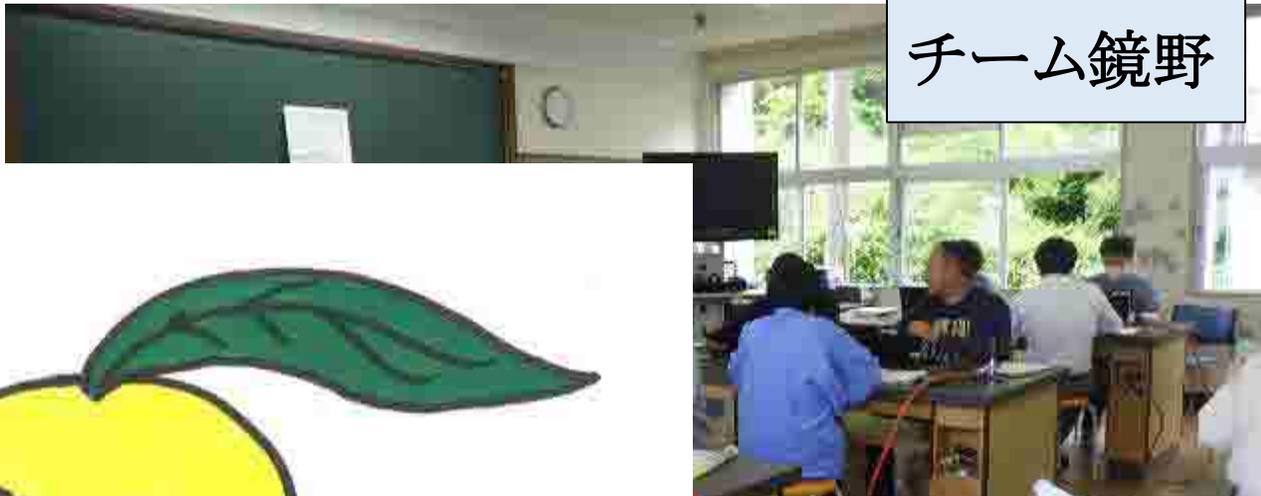


成果

- ・ 教師が手元でタブレットを見ながら生徒の進捗状況を把握し、必要な手立てができるようになった。
- ・ 疑問が生じた生徒に教師が答えるのではなく、「〇〇さんのシートを見てみるといいよ」と、解決のヒントを伝えるようにしている。
- ・ 進捗状況に差はあるが、全員が取り組むようになった。
- ・ 学習の課題、形態、過程を生徒自身が決めて取り組むようになった。
- ・ 教師の説明が少なくなることで、生徒の主体的な活動時間が増加した。

課題

- ・ 学習過程が異なる生徒一人一人の学びをどのように評価していくか。
- ・ 他者参照の必要性がある内容となっているか。



みのりん



ご清聴ありがとうございました



小中学校課 R6年度 義務教育段階における教育DX推進プラン

子供を主語に！！自分で学ぶ、共に学び合う
1人1台端末・クラウド環境をフル活用して「そろえる」から「伸ばす」学習へ

第3期教育等の振興に関する施策の大綱
第4期高知県教育振興基本計画
基本目標1
「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

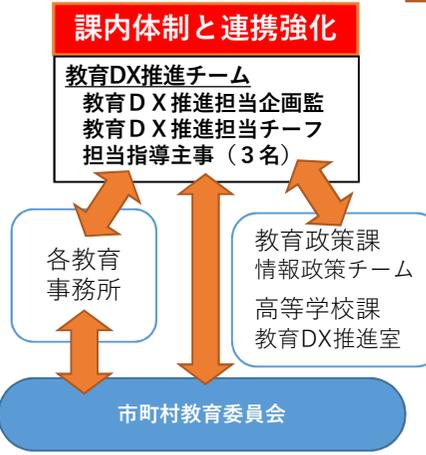
・小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。
・中学校の学力は全国平均に引き上げる。

〈小学校〉
D層の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
〈中学校〉
D層の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

期待される授業、子ども、教職員の姿	
授業	クラウドの特長を活用し、子どもたちが自己選択・自己決定でき、他者参照や共同編集などを活用した協働的な学びが実現できる学習者主体の授業
子ども	1人1台端末を活用することで、自己の学びを調整したり、多様な他者と協働したりしながら自分らしい学びを実現するとともに、粘り強く取り組もうとする
教職員	ICTを活用し子どもの学びを丁寧に見取り、子どもたちの主体的な学びを促すとともに、確かな授業力（教材を解釈する力、教材を創り出す力、実態を把握する力など）を日々磨こうとする

取組の進捗を測る指標 ※（ ）内は全国平均	
指標1	課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合を85%以上、かつ全国平均以上 <基準値> R 5 小学校: 78.1% (78.8%)、中学校: 82.9% (79.2%)
指標2	話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童生徒の割合を85%以上、かつ全国平均以上 <基準値> R 5 小学校: 79.6% (81.8%)、中学校: 82.8% (79.7%)
指標3	学校の授業時間以外に、平日、全く勉強しない児童生徒の割合を5%以下、かつ全国平均以下 <基準値> R 5 小学校6.3% (4.6%)、中学校: 8.1% (6.0%)
指標4	家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合を65%以上、かつ全国平均以上 <基準値> R 5 小学校: 68.8% (70.7%)、中学校: 56.0% (55.0%)

教育DX実現に向けた具体的な取組



1 授業観の転換

【ICTを活用した学習者主体の学びへの転換】

- 学習者主体の授業づくりの推進
- ・授業づくり講座 (46校)
- ※以下の教育DX指定校4校含む
香美市 (鏡野中学校)、越知町 (越知小学校)
四万十市 (中村中学校)、高知市 (昭和小学校)
- ・令和の学校教育を考える推進会議 (全3回)
(指導主事、主幹教諭、研究主任対象)
講師: 教育DX戦略アドバイザー
- 先進校視察 (指定校教員、指導主事)
- ブラッシュアップ研究協議会 (中学校国・社・数・理・英)
改善プラン訪問において指導助言

2 家庭学習のイメージ転換

【授業と授業外学習のシームレス化の推進】

- ・チラシ配布 (全教員)、動画による周知
- ・教育DX指定校やデジタルドリル活用実証研究校における好事例を横展開

3 教員のICT活用指導力の向上

【研修等を通して、教員のICT活用観の転換】

- クラウドの特長を理解し、授業において効果的に活用
- ・ICTスキルアップ研修会 (全5回・各小中学校悉皆)
内容: クラウド活用、生成AI、教育データ活用他
- ・小学校プログラミング教育研修会 (全2回)
(各小中学校悉皆、情報教育推進リーダーを活用)

4 児童生徒のICT活用能力の育成

【ICT活用に必要なスキルの習熟】

- ・高知家タイピング選手権 (全2回)
- ・ローマ字タイピング、英文タイピング
- ・デジタル作品コンクール 等

5 教育データの利活用

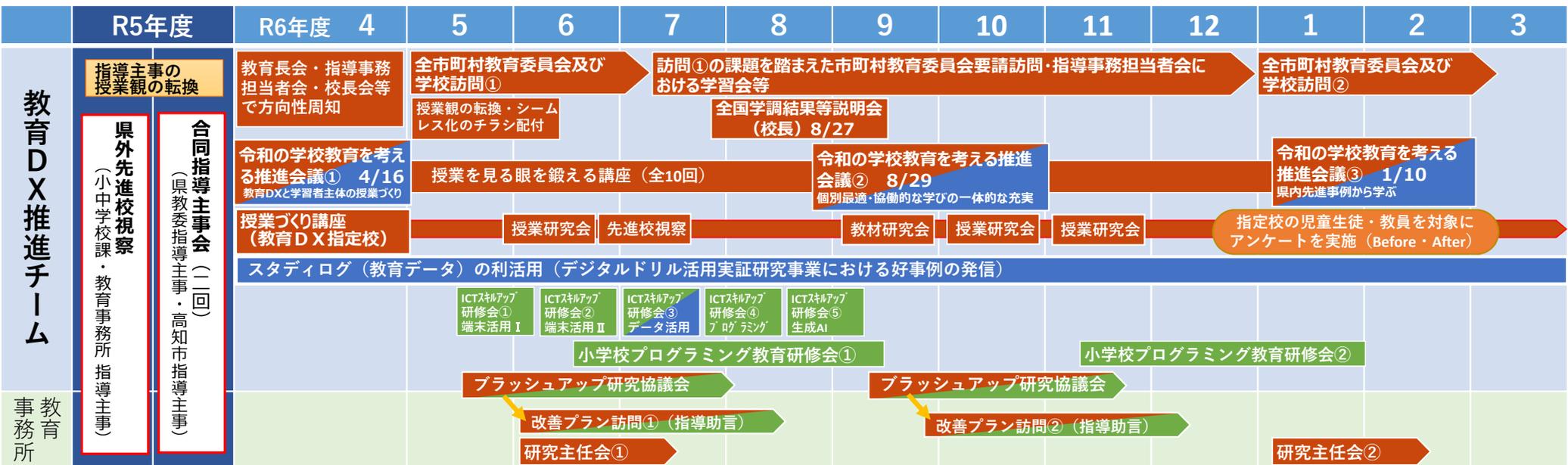
【高知家まなびばこ等、データ活用の推進】

- 児童生徒による学習履歴データの活用と学習の自己調整
- 教職員による児童生徒一人一人の学習状況や学級の傾向の把握

6 個に応じた指導・支援の充実

【一人一人の特性に応じた指導・支援】

- ICTの活用や外部機関との連携などの取組を通して、全ての子どもたちの可能性を引き出す
- ・日本語指導への支援 (e-ラーニング活用促進)
- ・特異な才能のある児童生徒への支援
- ・令和の学校教育を考える推進会議 (全3回)
(指導主事、主幹教諭、研究主任等)



これまで

これから

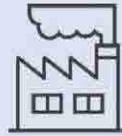
社会構造

工業化社会 大量生産・大量消費

巨大化する都市環境 指数関数的な人口増

経済成長

新卒一括採用・年功序列



新たな価値創造

イノベーション

SDGs Society 5.0

一人ひとりの多様な幸せ well-being DX

地球規模課題 多様性 安全・安心 総合知

AI 人材の流動化

学校教育

同質性・均質性
一律一様の教育・人材育成

一斉授業 形式的平等主義

みんな一緒に みんな同じペースで みんな同じことを



測りやすい力
重視

限られた時間で
自らの記憶や思考
だけを頼りに
素早く正確に解く
力を評価

自前主義

学校種、学校、
学年、学級、教
科などの縦割り
構造に基づく
教育の提供

社会的・文化的
バイアス

学びや進路の
選択を制約する
バイアスの存在
(女子の文理選択、
直線的な進学だけ
が選択肢)

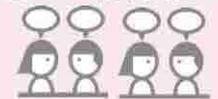


多様性を重視した教育・人材育成

個別最適な学び

協働的な学び

それぞれのペースで自分の学びを 対話を通じた「納得解」の形成



探究力重視

自ら学びを調整し、
社会に生きる学び
や試行錯誤しながら、
自ら課題を設定し
課題に立ち向かう
「探究力」を評価

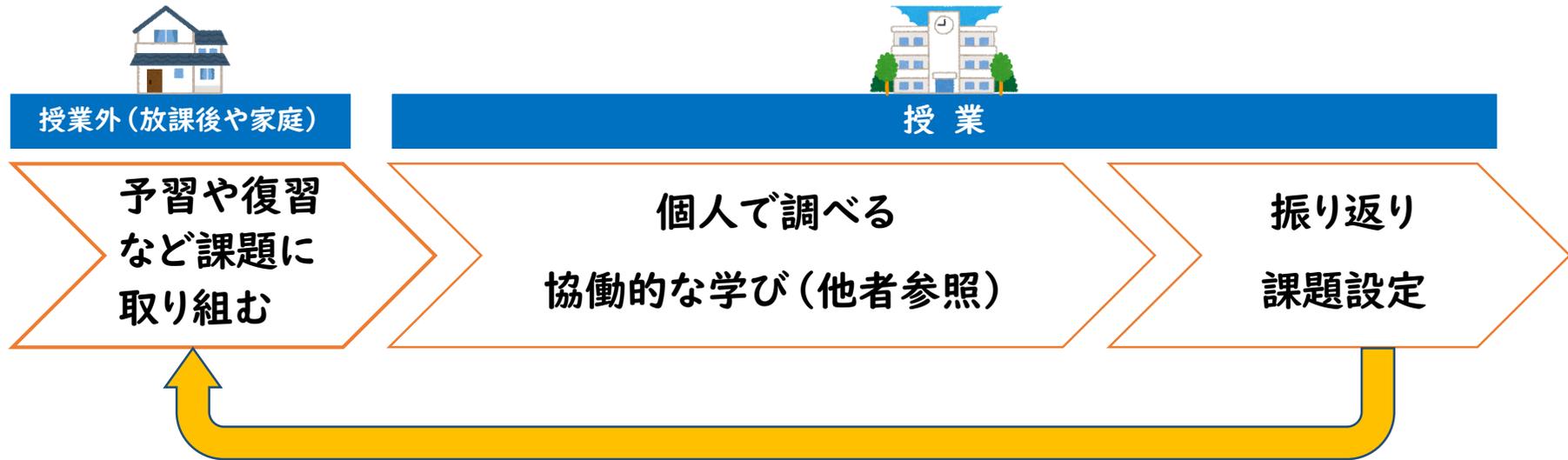
社会とシームレスな
協働体制

社会や専門的な
力を入れて、
一人ひとりの特性
を重視して、その
力をさらに伸ばす
体制

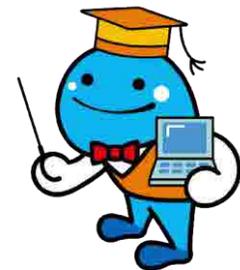
子供の主体性

大人の成功体験
や経験にとらわれ
ず、子供の好奇心
や個人の興味・関
心に応じた学びや
進路選択の実現

授業と授業外学習のシームレス化



デジタルツール等によって予習・授業・復習の
サイクルを確立し、日常的な学びの定着へ



タブレット端末やデジタル教材、スタディログ等を効果的に活用した、授業
改善と、授業・授業外学習の切れ目のないシームレス化の実現

「高知国際高等学校におけるICTを活用した 探究的な学びへの取組について」



令和6年6月21日（金）高知県総合教育会議に於いて

高知県立高知国際高等学校長 高野和幸

高知国際中学校・高等学校の概要

【設置形態】 併設型中高一貫教育校

【学校規模】 全校生徒数1,080名のIBワールドスクール

◆中学校 1学年80名（1学年3学級、9学級規模）

- ・令和2年11月にMYP認定校。

◆高等学校 1学年280名（1学年7学級、21学級規模）

- ・令和2年11月にMYP認定校。令和3年1月にDP認定校。

- ・グローバル科 1学年80名

 - DPコース 20名

 - 探究コース 60名

- ・普通科 1学年200名



高知国際中学校・高等学校の教育理念と目標

1 教育理念

多様な文化の理解と尊重の精神を通じて地域や国際社会の発展に貢献する心豊かえたくましく生き抜く人材を育成します。そのために次の五つを大切にします。

- (1) 学ぶことを誇りに思い、形成されるアイデンティティを尊重します。
- (2) 基礎的な学力を身に付け、自由で創造的な思考力を涵養します。
- (3) 自主と自立を礎にした強い自己を確立します。
- (4) 信義と礼節を重んじ、公共と奉仕の精神を養います。
- (5) 社会の一員としての責任を果たし、郷土への愛着と誇りを育みます。

2 教育目標

グローバル社会で求められる高い志、資質・能力を育む

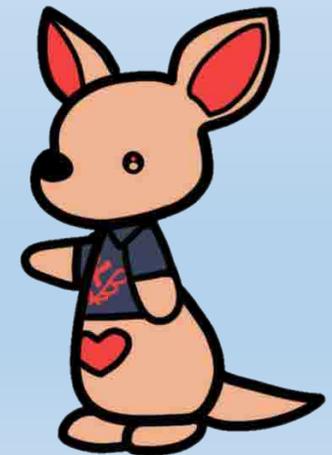
- 自ら学び、考える力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を養う。
- 多様な価値観を尊ぶ精神を持ち、他者と共に生きる態度を養う。
- 豊かな創造性を持ち、未来を切り拓く、自主・自律の精神を養う。

IBの使命 (The IB mission)

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心，知識，思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけていきます。

(国際バカロレア機構 2017 「国際バカロレア (IB) の教育とは？」)

探究的な学びは、学校の授業と家庭学習の
シームレス化を推進する。



探究的な学びとは、

- ① 探究テーマについて、生徒が主体的に調査・分析し、その結果を基に自分の考えをまとめ、言語化する。
- ② 生徒間で発表しあい、意見を交換し、他者の意見を受けて、自分の考えを振りかえり、深い理解へとつなげていくものである。
- ③ 深い理解から得られた新たな疑問が次の探究テーマとなる。
(探究のサイクル)

学習活動において、個でできることと集団でできることを明確化する。

- ①授業：教員の簡単なレクチャー、生徒間で意見を交換し、理解を深める場
- ②放課後：生徒間での協働による成果物の作成作業
- ③家庭：基礎的な知識を取り入れる場（反転学習）
授業での学びを振りかえる場（自分の作品を磨き上げる）
基本的なスキルを身に付ける場（ドリル学習など）



シームレス化

○授業と家庭学習をリンク（シームレス化）させる
道具としてのICT

- 課題の提示、作成、提出
- 説明動画の活用
- eラーニング（ドリル）

○生徒と生徒、生徒と教員をリンク（協働的な学び）
させる道具としてのICT

- 課題や作品の共有、生徒が協働して作品を作成
- 生徒一人一人の考えを共有



探究的な学びの充実

探究的な学びを通して、生徒は大学進学に必要な学力を身に付けることができた。

進路実績の特徴 「進路先の多様化」

- 普通科とグローバル科の両コースから難関と言われる国公立大学や私立大学に合格
- 県立高校では県内や中四国、関西圏の大学志向であるが、首都圏の大学に多数合格

進路実績（合格者数）

1 普通科（卒業生194名）

【海外大学】 1名

Monash University Malaysia（マレーシア）

【国公立大学】 85名

大阪大学、筑波大学、横浜国立大学、宇都宮大学、上越教育大学、大阪教育大学、神戸市看護大学、和歌山大学、岡山大学、広島大学、県立広島大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、高知県立大学、高知工科大学など

【私立大学】 227名

明治大学、青山学院大学、同志社大学、関西大学、京都薬科大学、神戸薬科大学、など

【短大・各種学校】 25名

【就職】 6名

2 グローバル科探究コース （卒業生51名）

【国公立大学】 23名

東北大学、東京都立大学、都留文科大学、京都工芸繊維大学、奈良女子大学、大阪教育大学、山口大学、岡山県立大学、新見公立大学、徳島大学、高知大学、高知県立大学、高知工科大学など

【私立大学】 46名

青山学院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵野美術大学、立命館大学、関西大学など

【短大・各種学校】 11名

【就職】 1名

3 グローバル科DPコース （卒業生20名）

【海外大学】 3名

Asia Pacific University of Technology & Innovation（マレーシア）

American University（アメリカ）

Melbourne University（オーストラリア）

【国公立大学】 17名

名古屋大学、横浜市立大学、広島大学、岡山大学、大阪公立大学、香川大学、高知大学（医学部医学科）、高知工科大学など

【私立大学】 18名

上智大学、明治大学、法政大学、創価大学、武蔵野美術大学、立命館大学、関西大学など

【短大・各種学校】 2名

高知国際中学校・高等学校におけるICT活用の原動力

- 国際バカロレア教育ではICT活用が常識であった。
- 国際バカロレア機構への生徒の成果物の提出はオンラインが常識。
- すべての教育活動においてICTを文具の一つとして使用する取組を推進してきた。

ICTを活用した具体例の紹介

- Googleスライドやスプレッドシートを活用した共同編集、発表
- CASIOのClassPadを活用した授業展開（数学、情報）
- 実験の動画をYoutubeでアップし、生徒に補足説明（DP物理）
- クラスルームによる部活動のデータ集約、部活ホームページ開設
- 生成AIによる学校行事の募集ポスター作成（企画研修部）

動画

ご清聴ありがとうございました



高知国際中学校・高等学校 校章



高知県の教育
高知家の教育

第3期教育等の振興に関する施策の大綱・第4期高知県教育振興基本計画

基本目標 1「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

- ◆学力定着把握検査（高校2年）におけるC層以上の生徒の割合を65%以上とする。
- ◆高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。
- ◆高校3年で「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

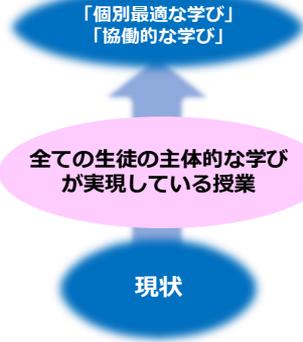
教育DX推進の目的

- ◆学力の向上
- ◆自立（自律）した学習者の育成
- +
- ◆デジタル社会に対応できる人材育成

高等学校課 学校支援・教育DX推進室の取組

Point 指導主事の力量のさらなる向上が前提

- ◆先進校視察
岡山県林野高校（4月）、宮城県仙台第三高校（5月）
- ◆交流会への参加
全国規模の交流会等への参加
- ◆前提となる「授業づくり」の力量向上
「授業づくり講座」等への参加（小中学校課との連携）
- ◆指導主事どうしの勉強会
「令和の日本型教育」の目指す姿とは
本県の立ち位置・目指す姿とは
→ これらを学校と共通言語化できるよう具現化
収集した事例の共有・一般化
→ モデル授業の作成及び提示



県立高等学校 教育DX推進のための体制構築

Point 教育DXの核となる教員の育成

- ◆Google認定教育者レベル1・2の取得に向けた研修
各校1人以上の育成を目指して、受講を奨励
(R5年度：合格者21名)

Point 教育DXを推進している者を評価する仕組みの導入

- ◆目標設定シートの評価指標に設定

Point 体制構築に向けた学校への助言

- ◆教員どうして授業を見せ合う風土
ICT活用など、目的を明確化
- ◆デジタルツール活用のためのマネジメント
(例) ツール活用に特化した時間の設定
校内のあらゆる作業をデジタル化
(ペーパーレス、電子決裁の推進)
- ◆推進チームの構築

国や本県の目指す姿について、県立高校と県教委が共通認識を持つことが必要

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
取組	学力向上訪問① 授業改善に係る校内体制の整備等のための協議		教科訪問① ○ICTの効果的に活用した授業改善に向けた協議 ○指導主事による事例提示等		学力向上 研究協議会 ① (8/21)	教科訪問② (・③) ○研究授業及び協議 ○特別支援教育課との連携 ○次回研究協議についての打ち合わせ			学力向上訪問② 授業改善に係る校内体制の整備等のための協議		学力向上 研究協議会 ② (2/14)	
DXハイスクール採択校（9校）の進捗管理												

- ◆求められる授業イメージの共有、校内での推進体制の構築を徹底するための学校訪問を行う。
- ◆特に、DXハイスクールには事業推進に係る意図的な推進体制の構築にむけて協働する。

対策のポイント

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な学び、探究的な学びを強化する学校に対して、必要な環境整備の経費を支援することで、デジタル等の成長分野の担い手を育成する。

現状・課題



【社会の要請】

- ▶ 大学段階でデジタル・理数分野への学部転換が進んでおり、高校段階でのデジタル等成長分野を支える人材育成の強化が必要
- ▶ すべての高校生にとって、情報モラルや科学リテラシーは今後、必要とされる資質・能力

【本県の現状】

- ▶ 教育課程に教科「情報Ⅱ」を置く県立高校が少ない。そのため、各校の情報教育の体系化を進め、その充実を図る必要がある。

令和6年度の取組



▶ 県立高校9校が「高等学校DX加速化推進事業」に採択

▶ 各校の既存の取組を強化し新たな局面へ

- ▷ 高大連携による今後のデジタル社会に対応した教育の充実
- ▷ 遠隔授業の配信強化による情報教育の充実
- ▷ 情報コース開設を視野に入れた情報教育の充実
- ▷ 地元自治体、企業、大学等と連携した探究学習の深化
- ▷ 次世代型産業人材の育成（ハイスpekクものづくり、スマート農業、医療DX等）

Point

ハイスpekク機器等を用いたより実践的な学習活動

- ★ 情報Ⅱ（又はその代替科目）の充実
- ★ データサイエンス、AIの研究
- ★ 情報モラルの学習
- ★ 外部人材（大学、企業、自治体等）の活用

情報教育に特色を持つ DXハイスクールへの進化

- ★ 我が国の成長分野を牽引するデジタル人材の育成
- ★ 新たな価値を創造し、本県の産業を担うDX人材の育成

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1月 公募開始	機器等の導入	研究の実践（5年間）	
2月 申請	教育課程の検討	教育課程の編成（～10月）	教育課程の実施
4月 交付決定	「情報Ⅱ」等の計画検討		

事業の概要

要件

- ① 情報Ⅱ又は数理・データサイエンス・AIの活用を前提とした学校設定科目、総合的な探究の時間等の開設
(情報Ⅱ等の開設に向けた具体的な検討を開始し、令和8年度までに開設する。受講生徒数全体の20%以上を目指す。)
- ② デジタルを活用した課外活動又は授業を実施するための設備を配備したスペースの整備

■ 支援対象

公立・私立の高等学校等
1,010校採択
(公立746校、私立264校)

■ 補助上限額

10,000千円/校(定額補助)

■ 支援対象例

ICT機器整備
〔ハイスpekクPC、3Dプリンタ〕
〔動画・画像生成ソフト など〕
遠隔授業用を含む通信機器整備
理数教育設備整備
専門高校の高度な実習設備整備
専門人材派遣等業務委託費 など

■ 取組例

- ▶ 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- ▶ 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- ▶ デジタルを活用した文理横断的な探究的な学びの実施
- ▶ デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- ▶ 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- ▶ 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施 など

高知県におけるDXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）について



本県の県立学校33校のうち、9校が、DXハイスクールに採択されている。
この9校は、本事業により整備される機器・設備等を最大限に活用しながら、本県の高校におけるデジタル等の成長分野の人材育成等の拠点として、自校のみならず、他の学校にも成果を還元できるよう、取組を促進していく。

- ◆安芸高等学校 ◆高知農業高等学校 ◆岡豊高等学校 ◆高知工業高等学校 ◆高知北高等学校
◆高知国際高等学校 ◆高知東高等学校 ◆窪川高等学校 ◆伊野商業高等学校

特に特徴的な2校の取組事例

高知東高等学校

高知市にある総合学科と看護科を設置している学校。
全国の看護科が設置されている採択校12校のなかの1校である。

目標

医療のデジタル化による業務効率化やデータ共有を通じた医療の「見える化」の推進による医療DXに向けた体制構築・人材育成を目指す。

具体的な取組

- ・デジタル（情報）と看護・介護等に知識・技術を活用できる人材の育成
- ・外部専門人材を活用した発展的な講義や実技指導の実施
- ・ハイブリッドシミュレータ*と電子カルテを用いた学習・医療DXに対応した学びを保障するための教員研修の実施

*ハイブリッドシミュレータとは、顔色の変化や生体情報モニター、脈の触知や血圧測定、パルスオキシメーターや体温計の計測も行い、時間経過や看護ケアによってバイタルサインや症状を変化させることができるもの。



窪川高等学校

四万十町にある中山間地域の小規模校で、学校設定科目「地域課題研究」を中核とした地域課題の発見、課題解決の探究活動を行っている。

目標

理数系大学への進学者数を増やし、地元生徒の入学者数を増やす。また、6次産業に新しい価値を見いだし対応できる人材を育成し、地域への人材供給を増やす。

具体的な取組

- ・情報・理数系のコースを設置し高度なデジタル技術を活用することで、理数系大学への進学者数を増やす
- ・学校設定科目「地域課題研究」で、四万十町や高知大学と連携し、地域の専門家と協力して課題を発見し、その解決策を学ぶ
- ・AI技術を活用している農家から最新の農業技術を学び、地域における6次産業を様々な視点から捉え直し、新たな価値を見いだす人材育成



高知東高校HP



窪川高校HP

